

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成 3 1 年度）
 - 研究課題 1 中学校 -

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ 国立 (○で囲む)

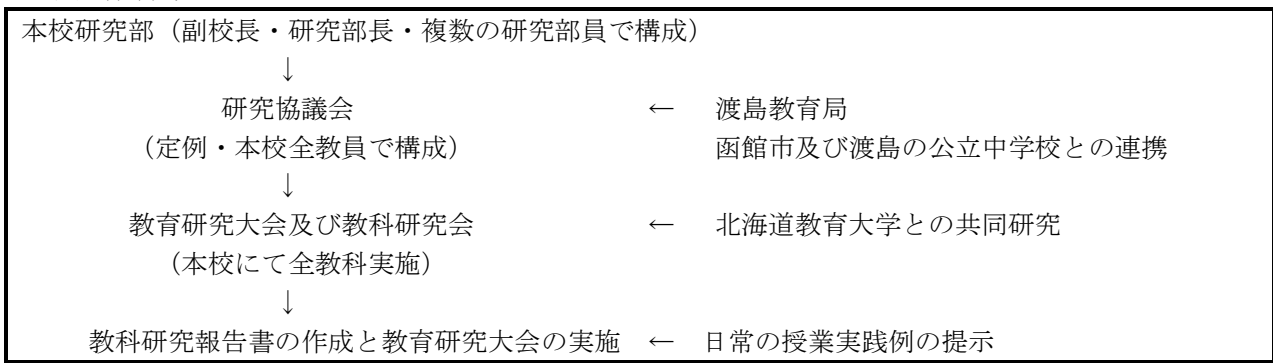
1 研究指定校の概要

ふりがな 学 校 名	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくほこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校				ふりがな 校 長 氏 名	かねみつ ひでお 金光 秀雄
所 在 地	〒041-0806 北海道函館市美原 3 丁目 48 番 6 号 電話 0138-46-2233 FAX 0138-47-6769 e-mail matsushita.ken@huefzhak-j.ed.jp					
(H31.4.1 見込)	1 年	2 年	3 年	計	(H31.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)	
学 級 数	3	3	3	9	教員数 18 名	
生 徒 数	105	104	105	314	[調査研究にかかわる教科等の教員数] 3 名	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	理 科	教科課題番号等	1
学校における研究主題	自然の事物・現象の中に問題を見だし課題を設定し、予想や仮説を検証するための観察・実験を計画し、課題を解決する学習活動の充実		
研究主題設定の理由	<p>本校では、平成 30 年度、理科における資質・能力をはぐくむ実践的な研究として、新学習指導要領の趣旨を具現化すべく、理科の学習過程において「自然の事物・現象から問題を見だし、課題を設定する」ために有効な学習活動の提案を行ってきた。</p> <p>平成 31 年度は、これまでの研究の成果と課題を踏まえ、「課題を設定し、予想や仮説を立て、検証するための観察・実験を計画する」一連の学習活動に注目し、研究を行っていく。「課題の設定から実験の遂行」までの一連の学習活動に着目した実践的な研究を通して、生徒一人一人に理科で育成を目指す資質・能力を育むための学習指導の改善・充実を図るとともに、全国の公立中学校の参考となるような研究を行っていきたくと考えている。</p>		
研究の内容	<p>< 調査研究の内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度の研究の成果である「問題を見だし、課題を設定する」学習活動の改善・更新。 「観察・実験を計画すること」に関する授業構想・教材開発 「観察・実験を計画すること」を円滑に進めるための実験書の作成 「観察・実験を計画すること」について発達段階及び学習の系統性を重視した年間指導計画の作成 <p>< 研究の方法 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 教育研究大会の実施（令和元年 6 月開催予定） 本校定例の教育研究協議会の実施（年間を通して隔週ごとに実施） 北海道教育大学との共同研究（年間を通して随時交流） 函館市及び渡島の公立中学校との研究協議会の開催（函館市中学校理科サークルと連携しながら随時実施） 全教科での校内授業研究会の実施（令和元年 11 月～令和 2 年 2 月実施予定） 教育研究報告書の作成と発行（令和 2 年 2 月作成予定） 		

3 研究体制等



4 研究計画

	実施時期	研究内容，研究方法，成果の公開等	期待される成果等
平成31年度・令和元年度	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○「観察・実験を計画すること」に関する指導方法の開発と年間指導計画の作成 ○教育研究大会の実施及び指導計画に基づく授業実践 ○指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階と学習の系統性を意識した年間指導計画ができ，それに基づいた実践・研究をPDCAサイクルの中で行っていくことができる。 ○校内授業研究会及び日常の授業実践により，実践上の課題が明らかになる。 ○「観察・実験を計画すること」に関する指導の有効性・有益性が明らかになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証 ○教科研究会の実施 ○指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証 ○「観察・実験を計画すること」に関する指導事項と年間指導計画の見直し ○教育課程の見直しと評価についての研究計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○「観察・実験を計画すること」に関する指導の有効性・有益性が明らかになる（中間報告）。 ○授業公開及び研究発表を行い，公立中学校等との交流を通して，本研究の成果と課題が明らかになる。 ○当初の指導計画・指導内容に改善を加えつつ研究を継続する。 ○1年次研究の成果と課題が明らかになる。また，2年次の方向性が明らかになる。
令和2年度	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○見直しをした指導計画に基づく授業実践及び教育研究大会 ○指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の授業実践及び教育研究大会により，実践上の課題が明らかになる。 ○「観察・実験を計画すること」に関する指導の有効性・有益性が明らかになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証 ○教科研究会の実施 ○指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証 ○「観察・実験を計画すること」に関する研究のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○「観察・実験を計画すること」に関する指導の有効性・有益性が明らかになる（中間報告）。 ○授業公開及び研究発表を行い，公立中学校等との交流を通して，本研究の成果と課題が明らかになる。 ○当初の指導計画・指導内容に改善を加えつつ研究を継続する。 ○2年間の研究の成果と課題が明らかになる。

5 研究のまとめの見直し

[結果の検証方法]

◆実践的な研究を進めていく中で、「自然の事象・現象から問題を見いだす」「課題を設定し、予想や仮説を立て、検証するための観察・実験を計画する」の観点について、生徒の様相にどのような変容が見られるのか、次の項目に着目し各々の方法で検証する。

①学習を進めようとするときに、事前に生徒に関連事項のスキーマがどのように形成されているのか。

(→マッピング・事前アンケート・診断的評価)

②総括的評価の場面で、指導事項の価値が生徒の変容に見られているか。

(質問調査及び提出課題における変容、過去の全国学力・学習状況調査との比較)

◆本実践がどの程度有効的なものであるのか知るため、公立中学校で検証する。

①近隣の公立中学校においても、有効な検証結果が得られるのか。

(事前アンケート、質問調査及び提出課題における変容、教師用アンケート)

[まとめの方向性]

「自然の事象・現象から問題を見いだす」「課題を設定し、予想や仮説を立て、検証するための観察・実験を計画する」の観点についての学習活動の改善に取り組むことによって、理科で育成を目指す資質・能力を育むことができる。

6 研究実績

- ・平成 31 年度「早寝早起き朝ごはん」推進校事業（文部科学省，平成 31 年度）
- ・国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業＜学校全体で取り組む研究課題＞（国立教育政策研究所，平成 30・31 年度指定）
- ・国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業＜各教科等に係る研究課題・中学校理科＞（国立教育政策研究所，平成 31 年度・令和 2 年度指定）
- ・人権教育研究推進事業（文部科学省，平成 31 年度）
- ・次世代の教育情報化推進事業＜情報活用能力の育成等に関する実践的調査研究＞（文部科学省，平成 31 年度）【申請中】